

公共施設マネジメント戦略会議・平成 29 年度第 2 回会議 議事概要

- 日 時：平成 30 年 2 月 8 日（月）14：35～14：55
- 場 所：災害対策本部室
- 出席者：永妻副市長（副委員長）、田中副市長（副委員長）
各部局長など委員 計 28 名（欠席 3 名 代理出席 2 名）
- 内 容：＜議題＞
 - ・ FM戦略プラン（骨子素案）について

概 要

1 開 会

2 議 題

○議題（1）「FM戦略プラン（骨子素案）について」

事務局が内容を説明。説明の概要は以下のとおり。

＜FM戦略プランについて＞

- ・ 今回策定するFM戦略プランは、公共施設の将来のあり方を示す、施設の更新、再編のための計画として策定するものである。
- ・ 策定スケジュールは、平成 29 年度中に庁内検討部会による骨子素案を検討し、平成 30 年度に外部有識者や公募市民による検討委員会に諮問し、平成 31 年度初めのパブコメを経て、計画策定を予定している。
- ・ 検討体制・経過は、昨年 11 月の、「公共施設マネジメント戦略会議」にて「FM戦略プラン検討部会」を設置し、「FM戦略プラン」の骨子素案を検討してきた。
- ・ 開催状況は、11 月から 1 月まで、係長以下の作業チームを含め計 4 回部会を開催し、2 月 1 日には市長、副市長、教育長、部会を構成する各部長出席の検討部会を開催し、骨子素案をまとめた。

＜FM戦略プラン（骨子素案）について＞

- ・ 骨子素案では、検討対象施設を市民利用がある施設のうち、機能の重複がある施設、複合化により効果が期待できる施設等として、総合福祉会館等 14 施設を優先的に検討した。
- ・ 第 2 章公共施設の現状では、これまで教育、福祉などのジャンル別に施設を分類し、整理してきたが、まちづくりの観点などから施設のあり方を考えるには、配置や使用方法が重要であると考え、各施設の利用圏域という観点から整理し、全市利用、大エリア、中エリアに分類した。
- ・ 中エリア施設は、コミセンを中心に各地域に分散して配置されているが、全市利用施設では、市域全体から人が集まりやすい本庁地区に施設が多く、大エリア施設は、そのエリアの中心となる地区の追浜や久里浜という地区に施設が多いという状況にあることがわかる。
- ・ 7 から 9 ページでは、エリアごとに、施設の機能について、実際の使用方法から整理した。
- ・ 全市利用施設 8 施設は、主な機能を集会イベントからホール機能まで 6 つの機能に分類し、整理した結果、施設の設置目的に違いがあっても、実際の使い方としては、機能の重複があることがわかる。
- ・ 大エリアの施設は図書館と体育会館があり、この 2 施設はそれぞれ別の機能を持っている施設

であることがわかる。

- ・ 中エリアでは、学校開放による学校施設を含めて機能を検討し、老人福祉センターや青少年の家では個人利用ができることから、居場所の機能があると整理した。
- ・ その居場所機能が現状では特定世代の居場所となっていることが課題であると考えている。
- ・ 10 ページでは、(2) すべてのエリアで見た分析として、エリア間の機能の重複などについて記載している。
- ・ 貸室機能は、全市と中エリアにあるが、規模の大きさや利用者などにより使い分けがされていること、図書館機能では、大エリアでカバーしきれていない地域を中エリアのコミセン図書室がカバーしている事等を記載している。
- ・ 第3章FM戦略プランの基本方針として、「1 地域コミュニティの再生に寄与する拠点づくりを推進する」、から「5 公民連携を推進する」までの5つを記載している。
- ・ 第4章 公共施設の更新・再編のあり方では、更新再編の手法を「集約」、「複合化」、「維持」、「廃止」の4つのパターンと、それらを実行する際の手法として「公民連携の活用」の5つに整理し、それらの手法の説明とイメージ図を記載している。
- ・ 第5章 施設の将来像の1 施設の将来像とまちづくりの関係として、都市計画マスタープランや立地適正化計画の考え方を踏まえて、施設の将来像を検討する必要があることや、施設の再編や複合化を行う際には、跡地の活用を含め、エリア全体としてのまちづくりを考える必要がある事等を記載している。
- ・ 2 機能や使い方から見た将来像として、第2章に記載したエリア別に整理し、それぞれの将来像を記載している。
- ・ 全市利用施設では、主に貸室系とホール系の2つの機能を持っており、機能が重複しているため将来像としては、集約の検討を行うことや、立地に配慮すること、施設の価値やサービス向上のために他施設との複合化や公民連携を検討すること等と整理した。
- ・ 大エリア施設では、図書館と体育会館の機能は重複がないが、図書館はにぎわいを生む集客施設としての側面も持っていることから、施設の価値を高め、サービス向上のため、複合化や公民連携を検討することと整理した。
- ・ 中エリア施設では、機能としては貸室と居場所の2つの機能を持っていること、それぞれの施設が地域コミュニティとの関わりが強いこと、機能の重複があることから、将来像としては、施設の複合化や、地域の拠点として多世代が交流する施設とする事、学校などの地域の拠点として認識されている施設を活用すること等と整理した。
- ・ 「3 施設の将来像に向けた取組手法」、(1) 施設種類別では、第4章の更新再編のあり方と、前頁までの将来像から、各施設種類別に25から26ページの様式により、施設の将来像と検討手法を記載していきたいと考えている。
- ・ (2) 施設種類別では、施設種別の将来像を各地区別に落とし込んだものを記載していきたいと考えている。

<質疑等>

- ・ これまで各施設は設置目的を定めて設置されているが、今後はそれらの設置目的を考慮しつつ同じ設置目的として集約するという事か。
- ⇒ これまでの設置目的ごとに利用者を想定した施設の整理ではなく、より広い利用者を想定した設置目的に変えていくことも考えられる。具体的な内容については検討していきたい。
- ・ 個別の設置目的ごとに施設を設置するのは、今の時代には合っていないと思うため、プランの中に明記したほうが良いと思う。

- ・ 横須賀市の課題として人口減少が挙げられるため、人口との分析を行い記載したほうが良いと思う。
 - ・ P13、14 1 公共施設の更新・再編の基本的手法について、期待できる項目に「収入創出」とあるが、行政としてはあまり使わない表現だが何か意図があるのか。また、その期待できる効果の手法として「売却・貸付」があるが、売却・貸付により収入があることは当然であるためあえて記載しなくても良いのではないか。
- ⇒ 表現を検討する。

議題（1）「FM戦略プラン（骨子素案）について」は、事務局案のとおり決定する。

4 閉 会

以 上